

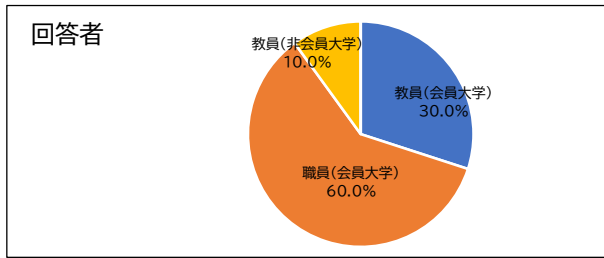
2025(令和7)年度 大阪府内地域連携プラットフォーム
第4回「大阪∞GAKU」(大学教職員研修) 受講者アンケート

回答者 10名 / 受講者 16名 回答率 62.5%

1. 回答者について

教員(会員大学)	3
職員(会員大学)	6
教員(非会員大学)	1
職員(非会員大学)	0
その他	0

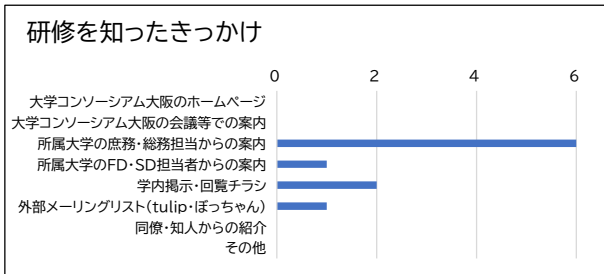
10



2. 研修を知ったきっかけ(複数回答可)

大学コンソーシアム大阪のホームページ	0
大学コンソーシアム大阪の会議等での案内	0
所属大学の庶務・総務担当からの案内	6
所属大学のFD・SD担当者からの案内	1
学内掲示・回覧チラシ	2
外部メーリングリスト(tulip・ほっちゃん)	1
同僚・知人からの紹介	0
その他	0

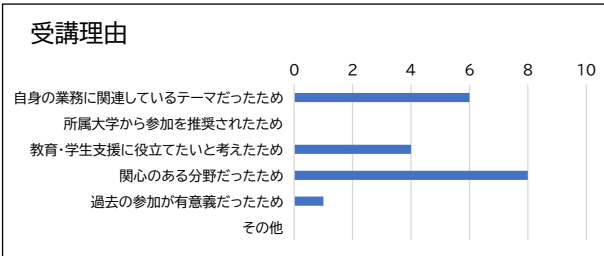
10



3. 受講理由(複数回答可)

自身の業務に関連しているテーマだったため	6
所属大学から参加を推奨されたため	0
教育・学生支援に役立てたいと考えたため	4
関心のある分野だったため	8
過去の参加が有意義だったため	1
その他	0

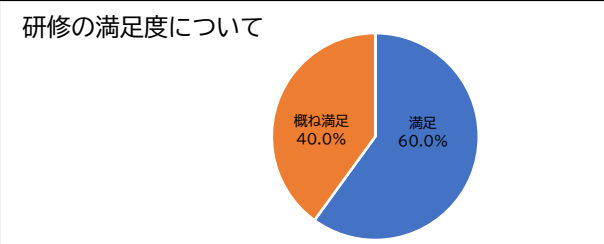
19



4. 研修の満足度について

満足	6
概ね満足	4
どちらともいえない	0
満足できない点があった	0
不満	0

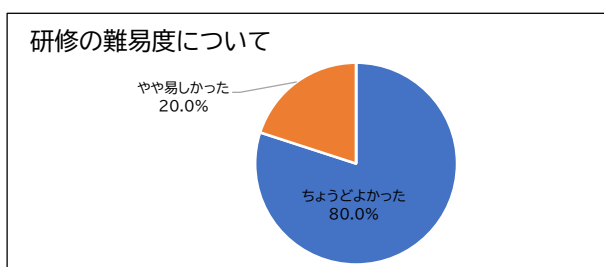
10



5. 研修の難易度について

難しかった	0
やや難しかった	0
ちょうどよかった	8
やや易しかった	2
易しかった	0

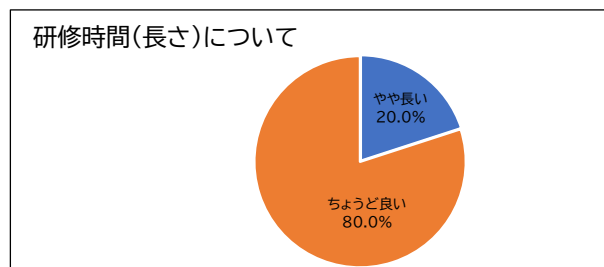
10



6. 研修の時間(長さ)について

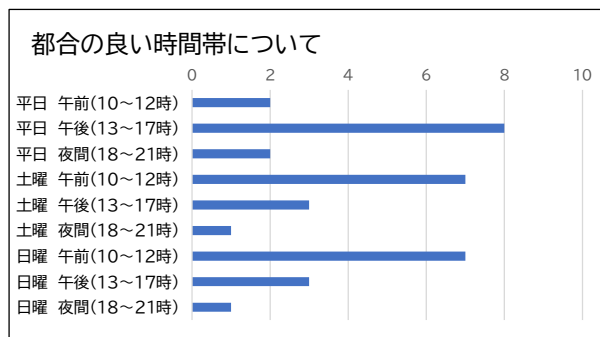
長い	0
やや長い	2
ちょうど良い	8
やや短い	0
短い	0

10



7. 研修の受講にあたり都合の良い時間帯について

平日 午前(10~12時)	2
平日 午後(13~17時)	8
平日 夜間(18~21時)	2
土曜 午前(10~12時)	7
土曜 午後(13~17時)	3
土曜 夜間(18~21時)	1
日曜 午前(10~12時)	7
日曜 午後(13~17時)	3
日曜 夜間(18~21時)	1



8. 特に印象に残った点や参考になったこと

支えることは「寄り添うこと」からはじまる。
自分のところも健全に保つこと、PFA
心にも防災リユックが必要であること
大学の立地によっても果たせる役割が変わる、と思いました。
日頃の業務で市民講座の運営も行っているのですが、地域の防災拠点として、地域住民の方との距離を縮めることにも繋がる大切な業務だと改めて実感しました。震災の病院で経験されたお話、呼吸法や安心できる言葉や場所の意識づけのお話も大変興味深く学ばせていただきました。ありがとうございました。
不安の正体が何なのかを知ることでコントロールしやすくなるやトラウマや悲しみ、ストレスは異常な反応であることを知れて、自分自身にも非常に勉強になる講義でした。ありがとうございました。
防災について、学内のことに目を向けたことはありましたが、地域住民の方のことまで考えられていませんでした。大学という場所の特質を理解して、防災を考える必要があるのだなと考えるきっかけになりました。
被災地での経験のお話が印象に残りました。また、自身が支援者として何ができるのか不安に思っておりましたが、対応例など具体的に教えていただき落ち着いて行動ができそうです。
川端先生のお話は、とても安心できる声のトーンやスピードで、こころの防災というテーマをより深く理解できるように感じました。学生対応をする際などに、講演の内容だけでなく、話すトーン、スピードなども意識していこうと思いました。今回、グループワークがあったのですが、どんなことを話したらよいかははっきりとわからなかったため、プレイルームに入ってから皆さん発言がなくカメラもオフのままだったのが残念でした。

9. その他、研修に関する意見、感想等

<ul style="list-style-type: none"> ・心理士の先生のお話を初めて拝聴いたしましたが、とても穏やかでゆったりと聴くことができました。スライドがとてもおしゃやれで参考になりました。 ・気づきの支援として、定期的なメンタルチェックツールの提供とありましたが、一般人でも心の気づきとして行えるツールを教えていただき良かった。 ・大阪医科薬科大学では震災時の心の防災を具体的にどのように行われているのか、多職種連携で行われているのかについて教えていただき良かったです。
PFAのマニュアルを配布するとよいつのアドバイスがありました。WHO版と赤十字版がありますが、専門知識のない層にむけて配布する際、どちらがよいでしょうか？
とても有意義な研修でした。また機会がありましたら、ぜひ参加したいです。ありがとうございました。
各大学の保健室の方や学生支援の方、防災担当の方にもぜひ聞いていただきたいお話でした。
グループディスカッションで他の方が抜けてしまい、他大学の方と私の二人になってしまい、門外漢の私しか相手がおらず申し訳なかった。
グループワークは、ファシリテーターがいた方がよいと思います。7~8分待ちましたが、始まったのかわからず、退室させて頂きました。

10. 今後、大阪∞GAKU (大阪府内地域連携プラットフォーム 大学教職員研修)に期待すること、希望する研修テーマ等

修学支援、PFA 研修
時事問題に関連する内容
産学連携などのお話

<参考:アンケートで寄せられたご質問への講師からの回答>

質問1

気づきの支援として、定期的なメンタルチェックツールの提供とありましたが、一般人でも心の気づきとして行えるツールを教えてくださいました。

回答1

一般の方でも取り組みやすいメンタルチェックとして、K6(ケスラー6項目尺度)という簡便な質問紙があります。ネットで検索いただくとすぐに出てきます。これは、過去30日間の気分やストレスの状態について6つの質問に答えるもので、短時間で自身のこころの負担感を振り返ることができます。点数はあくまで目安ですが、定期的の実施することで「以前よりしんどくなっていないか」といった変化に気づききっかけになります。なお、この際、重要なのは正確に測ることよりも、自分の状態に関心を向け続けることです。

質問 2

大阪医科薬科大学では震災時の心の防災を具体的にどのように行われているのか、多職種連携で行われているのかについて教えてくださいました。

回答 2

本学における震災時の「こころの防災」については、現時点で体系化されたプログラムとして明確に提示できるものは限られています。災害時には医療機関として多職種連携のもと対応が行われる体制が想定されています。実際に数年前のコロナ禍においては、精神科医師・看護師・心理師によるこころのケアチームを発足し、患者・家族支援および、対応に当たったICUおよび救急スタッフ支援を行ってきました。このような経験は、災害時における心理的支援体制の基盤になるものと考えられます。心理職としては、急性期の心理的応急処置(PFA)的な関わりや、不安・混乱への対応、スタッフへのサポートなどを担うことが想定されます。一方で、「こころの防災」を平時からどのように備えるかについては、今後さらに整理・強化していく余地があり、今回の研修もその一助となることを意図しています。

質問3

PFAのマニュアルを配布するとよいとのアドバイスがありました。WHO版と赤十字版がありますが、専門知識のない層にむけて配布する際、どちらがよいでしょうか？

回答3

専門知識のない方への配布という点では、赤十字版のPFAマニュアルの方が適していると考えられます。赤十字版は一般市民向けに作成されており、言葉が平易で、具体的な行動イメージが持ちやすい構成になっています。一方、WHO版は専門職や支援者を想定した内容で、やや概念的・包括的な記述が多く、初學者の方々には少しハードルが高い場合があります。そのため、まずは赤十字版を導入として配布し、必要に応じて関心の高い方にWHO版を紹介する、という段階的な提示が現実的だと思われます。